



「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」として、 サイエンス&テクノロジーの強みと人材の力で挑み続ける

株主の皆様には、日頃よりご支援・ご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は「世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」というパーカスのもと、革新的医薬品の創出と提供を通じ、社会的価値を創造し続けております。2021年度より取り組んでいた第5期中期経営計画(2021~2025年度)は最終年度を迎え、当初掲げた「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」の達成に強い手応えを感じています。

当社の最大の成長ドライバーであるエンハーツ®(抗悪性腫瘍剤／抗HER2抗体薬物複合体(ADC))は、乳がんを中心に世界中の患者さんへ幅広い治療選択肢を提供し、2024年11月には製薬分野のノーベル賞ともいわれる米国ガリアン賞を受賞する等、がん治療に変革をもたらしています。また、当社独自のADCプラットフォーム技術を適用した2番目の製品であるダトロウェイ®も、

日本、米国、欧州をはじめとする多くの市場で本年より販売を開始し、立ち上がりは順調です。そして、これらを含めた5つのADC製品の価値最大化に向け、アストラゼネカ、米国メルクとの戦略的提携を通じて、より早く、より多くの患者さんに届ける体制を構築しています。

当社の持続的成長は、最大の強みであるサイエンス&テクノロジーの力と多様な人材による組織力の結集、そして患者さんを中心に据えた「Patient Centricity」の企業文化によって支えられています。今後も技術革新と人材育成を進めながら、患者さんのニーズに応える新たな革新的医薬品の創出への挑戦を続けてまいります。

そして、当社の成長によって生まれた価値をすべてのステークホルダーと分かち合い、社会から信頼され、期待され続ける企業であるために、責任を持ってこの使命を果たしてまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも変わらぬご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 兼 CEO 奥澤 宏幸

POINT



2025年度中間期決算速報

売上収益9,754億円 コア営業利益1,586億円



詳細は『2025年度 連結業績』へ



2025年度配当予想

中間配当で39円の配当を実施、年度予想は78円



詳細は『Shareholder Information』へ



注目トピック

未来を切り開く研究拠点

米国サンディエゴにスマートリサーチラボを設立



詳細は『施設紹介』へ

Our Stories

第一三共のストーリー

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

Passion for Innovation. Compassion for Patients.™



ウェブサイトでは、第一三共の活動ストーリーを数多くご紹介しています。
私たちのイノベーションへの情熱、患者さんへの想いに触れてください。

第一三共 ストーリー 検索



先進的グローバル創薬企業の研究をリード。 高い専門性を持つ研究者たちが協働できる組織を目指して

研究開発本部長兼研究統括部長を務める執行役員の阿部有生さん。

がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業として、高い専門性を有する研究者たちが情熱を持って日々挑戦できるような組織づくりを目指す、その想いについて語ります。

阿部さんはハーバード大学への留学後、2010年に抗体医薬研究所へ異動し、がん治療の主軸を担うことになるADC技術の研究チームリーダーに就任。

さまざまな専門分野のメンバーと活発に議論を交わし、妥協なく挑戦を続け、僅か2年後の2012年に独自のADC技術の確立に成功します。

2019年のオンコロジー第二研究所長への就任以降、当社の長所を生かした研究体制の構築から始まり、研究開発の加速やオープンイノベーションの推進を目指して、組織運営に注力。世界に先駆けて新薬を創出するためにはスピードが重要であり、それを可能とする組織設計が必要だったと阿部さんは語ります。

「創薬には多くの研究者が関わりますが、優れた医薬品を生み出すためには、それぞれの能力を存分に発揮できる環境づくりが大切です。さまざまな専門分野の研究者が切磋琢磨し、仮説と検証を繰り返しながら結論を導き出せるようなフラットな研究組織が必要なのです。そして、それぞれの研究者が自らの専門性を高める努力を怠らないことが不可欠です。」

研究部門を取りまとめる現在も研究者としてその想いは変わらず持ち続け、創薬の未来、世界の人々の健康に貢献していきたいと語っています。



Story全文はこちら

「当たり前」の裏側にある想い

—— 現場での対話が照らすPatient Centricityのかたち

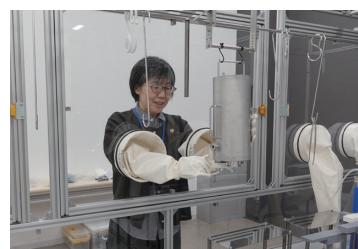
第一三共では、患者さんの視点に立った価値創造「Patient Centricity」を企業活動の中心に据えています。2025年9月、当社製薬技術開発センターにて、医療現場の治験コーディネーター(CRC)や薬剤師と当社テクノロジーユニットのメンバーが直接対話するイベントを開催しました。テクノロジーユニットは、2024年に、バイオロジクス、製薬技術、サプライチェーンの3つの機能を統合したユニットで、開発初期から商用生産・供給までの「治商一体」をコンセプトにしています。

参加者は製造現場の見学を通じて、温度管理などの厳密さや品質保証の仕組み、作業の難しさを体感。薬が患者さんのもとに届くまでに多くの工程と人の手が関わっていることを実感し、「薬に対する責任感が高まった」との声が寄せられました。

この対話会は、社内横断チーム「Patient Centricity Working Team(PCWT)」が主催。PCWTは、患者さんの声をバリューチェーン全体に反映させる取り組みを国内外で推進しています。このチームのリーダーである上野司津子さんは、当社社員から選出された初の女性取締役です。上野さんは、国内外の医療関係者や患者団体との対話を重ね、海外の国際学会でもこの活動を展開。グローバルな視点で患者さん中心の価値創造を推進しています。

「いつも患者さんを心の真ん中に。」

私たちは、葉づくりの「当たり前」の裏側にある想いや努力を丁寧にくみ取り、社内外へ発信することで、患者さんにとって本当に必要な価値を届ける企業であり続けます。これからも、患者さんを心の真ん中に置いた企業活動を通じて、社会への貢献と企業価値の向上を目指してまいります。



Story全文はこちら

施設紹介

サンディエゴ スマートリサーチラボ(SRL) 最先端の創薬研究を支える拠点

2025年1月、米国カリフォルニア州サンディエゴに「スマートリサーチラボ(SRL)」を設立しました。

この施設は、ロボット技術と自社開発ソフトウェアを融合した最先端の創薬研究拠点です。

2026年の稼働を目指し、創薬のスピードと質を飛躍的に高めるための基盤づくりを進めています。

施設の特徴

▶ 自動化とデータ統合

24時間365日稼働可能なロボットと高機能ソフトウェアによる統合制御システムを導入し、実験の自動化とデータの標準化・一元管理を実現しています。

▶ 独自開発ソフトウェア

実験デザインからサンプル管理、データ取得、クラウド環境での統合まで、第一三共独自のソフトウェアで統合化しました。多次元データの利活用や将来のAI解析にも対応できる設計です。

▶ FAIR原則の実践

ロボットとソフトウェアで生成される膨大な研究データを「FAIR原則(Findable : 見つけやすい、Accessible : アクセスしやすい、Interoperable : 相互運用可能、Reusable : 再利用可能)」に則って管理・活用しています。これにより、データの再現性や透明性が向上し、研究者が必要な情報に迅速にアクセスできる環境を整えています。

▶ 研究者の働きやすさ

反復的な作業はロボットとソフトウェアが担い、研究者は仮説立案や戦略設計など、より創造的な業務に集中できる環境を整えています。



第一三共 スマートリサーチラボ [検索](#)



未来を切り開く研究拠点 スマートリサーチラボによる研究DXの可能性

研究イノベーション企画部 磯山 毅さん

未来を切り開く研究拠点として期待されるスマートリサーチラボについて、企画から準備、設立まで一貫して携わってきた磯山毅さんにお話を伺いました。

入社以来、国内外の研究施設で多種多様な創薬研究に携わってきた磯山さん。そこで培った経験から、DXによる創薬研究の更なる進化の可能性を強く感じ、スマートリサーチラボの設立を会社に提案し、立ち上げまでを主導してきました。

第一三共として、米国内で自ら創薬研究拠点を立ち上げるのは初めての試みであり、試行錯誤を重ねながら準備を進めてきたといいます。

この施設の設立目的は、第一三共の研究プロセスに革新をもたらし、医薬品開発を加速させることです。これは、世界中の患者さんに革新的な治療薬を迅速かつ効率的に届けることに繋がります。この目的を共有することで、多くの関係者から理解や納得を得ることができました。サンディエゴは、ライフサイエンスやバイオテクノロジー分野の集積地として知られており、AI創薬やロボティクス分野の企業・大学との連携機会も豊富です。最先端の技術者が集まるこの地に拠点を構えることで、グローバルな研究体制の強化にも繋がっています。

スマートリサーチラボと磯山さんの挑戦は、これから第一三共の創薬研究の在り方に大きなインパクトを与え、世界中の患者さんに新しい希望を届ける原動力となるでしょう。



Story全文は[こちら](#)



バリューレポート2025を公開しました

第一三共の統合報告書「バリューレポート」は、パーカス実現に向けた当社の価値創造プロセスを財務・非財務の面から説明し、ストーリーとしてご理解いただくためのコミュニケーションツール、また、サステナビリティの観点での年間の取り組みやデータを報告するツールと位置付けています。

2025年9月に公開したバリューレポート2025では、前半は価値創造ストーリーを中心に情報をまとめ、後半をサステナビリティ報告としました。

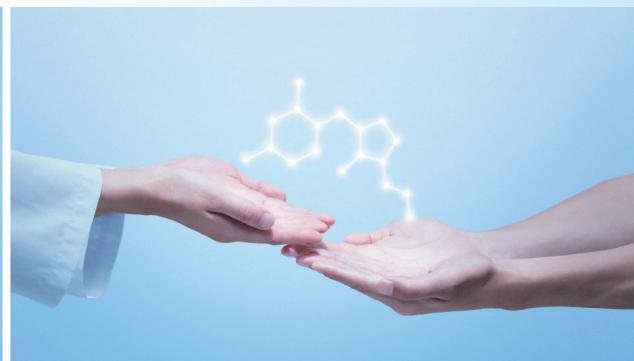
特集記事「サイエンス&テクノロジー」では、当社グループの最大の強みであるサイエンス&テクノロジーをテーマに、イノベーション創出の再現性を高める基盤としての人的資本や組織文化、そしてテクノロジーの優位性について、具体的に解説しています。

また、「社外取締役インタビュー」では、第一三共が持続的な価値創造を実現していくための経営の視点を、さまざまな角度から深く掘り下げています。是非ご覧ください。



第一三共 バリューレポート 検索

第一三共のコンセプトムービーが新しくなりました



サイエンス。それは、希望。



「リレー」篇



「希望を
奏でる」篇

第一三共の薬づくりに、終わりはない。
もっと多くのがんに対応できないか?
もっと多くの選択肢を作れないか?
さまざまがんと闘い、
治療の可能性を広げていくプラットフォーム技術、ADC。
「がんに勝つ」。世界中が描くその理想を、
人々が手にできる形にしていく。
想いのリレーの先に、希望があると信じて。



サイエンス。それは、希望。 検索

2025年度 連結業績

■ 中間期(2025年4月～2025年9月) 業績ハイライト

| 売上収益 |
|--|
| 9,754億円 |
| (前年同期比 926億円増収) |
| 通期予想 2兆1,000億円 上方修正 |

| コア営業利益※1 |
|---------------------|
| 1,586億円 |
| (前年同期比 80億円減益) |
| 通期予想 3,500億円 |

※1 営業利益から一過性の収益・費用を除外した経常的な収益を示す指標

| 営業利益 |
|--|
| 1,442億円 |
| (前年同期比 427億円減益) |
| 通期予想 3,350億円 下方修正 |

| 親会社の所有者に帰属する当期利益 |
|--|
| 1,308億円 |
| (前年同期比 159億円減益) |
| 通期予想 2,880億円 下方修正 |

| グローバル主力製品 |
|--|
| エンハーツ® 3,303億円 (前年同期比 586億円増収) |
| リクシアナ® 1,860億円 (前年同期比 118億円増収) |

| 連結財政状態 |
|--|
| 資産合計 3兆5,693億円 (3期末比 1,132億円増) |
| 資本合計 1兆6,526億円 (3期末比 292億円増) |

■ 2025年度通期(2025年4月～2026年3月) 連結業績予想の修正

- 売上収益については、円安による増収効果に加え、日本・米国のダトロウェイ®及び米国エンハーツ®の製品売上が想定を上回り好調に推移していることにより、前回予想を1,000億円上回る2兆1,000億円に修正しました。
- コア営業利益については、売上収益の増加に伴う売上総利益の増加を見込む一方、エンハーツ®及びダトロウェイ®の売上伸長に伴うプロフィット・シェアの費用増加等が見込まれるため、前回予想を据え置きました。
- 営業利益については、中間期までに一過性の費用として185億円を計上したことにより、前回予想を150億円下回る3,350億円に修正しました。
- 親会社の所有者に帰属する当期利益については、前回予想を120億円下回る2,880億円に修正しました。

■ ユニット別売上収益

(単位：億円)

| ユニット | 中間期(前同比) | 2025年度予想(前年比) | 事業内容 |
|---------------|---------------------|-----------------------|--|
| ジャパンビジネス | 2,499 (+103) | 4,748 (▲21) | 日本国内のイノベータイプ医薬品(新薬)、ワクチン事業 |
| 第一三共ヘルスケア | 459 (+34) | 915 (+48) | 一般用医薬品等に関する事業 |
| オンコロジービジネス | 2,730 (+574) | 5,990 (+1,352) | 第一三共Inc.(米国)と第一三共ヨーロッパのがん領域事業 |
| アメリカンリージェント | 968 (▲113) | 1,884 (▲288) | 鉄欠乏性貧血治療剤やジェネリック注射剤等を扱う米国子会社 |
| EUスペシャルティビジネス | 1,368 (+186) | 2,665 (+291) | がん製品を除く第一三共ヨーロッパの製品事業 |
| ASCAビジネス | 1,179 (+183) | 2,442 (+329) | アジア・中南米(Asia, South & Central America)事業 |

製品別売上収益の状況や過年度実績比較、また主要開発品目の臨床試験の状況等の
詳細情報は、ウェブサイトに掲載している決算補足資料からご確認いただけます。

決算経営説明会の映像・スライド資料とともに是非ご活用ください。

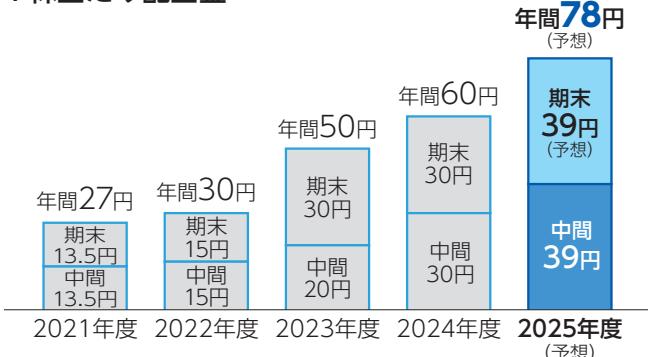
第一三共 決算説明会 検索



Shareholder Information

株主還元方針と2025年度配当

1株当たり配当金



第5期中期経営計画(2021～2025年度)期間中におきましては、利益成長に応じた増配、あるいは機動的な自己株式取得を実施することで、株主還元の更なる充実を図る方針です。

2025年度においては、エンハーツ®の更なる売上拡大等により、1株当たり配当金を前年度に比べ18円増配の年間78円の予定とし、中間配当として39円をお支払いすることとした。

また、株価水準等を総合的に勘案した機動的な対応を図るため、2025年5月から2026年3月を期限として、総額2,000億円または8,000万株を上限とした自己株式の取得枠を設定しています。

2026年3月上旬開催予定の個人投資家説明会に向けて

株主様のご意見やご質問を、説明会の発表資料作成に反映してまいります。説明会で聞いてみたい事項等を右記の株主様専用サイト内のアンケートから是非お聞かせください。

2026年3月上旬には、IR支援会社共催の個人投資家説明会に奥澤社長が登壇予定です。アンケート内でメールアドレスをご入力いただいた株主様には、参加方法を含む開催情報をお送りしますので、ご活用ください。

多くの株主様のご意見やご質問をお待ちしております!



株主様専用サイト [Engagement Portal]

<https://engagement-portal.tr.mufg.jp/login.php>



エンゲージメントポータル 検索

① ログインID

株主番号(8桁)

※株主番号は、配当金計算書の右上に記載されています。
左端のボックスに1900と入れた上で、4桁ずつご入力ください。

② パスワード (郵便番号+2025) XXXXXXXX2025

※2025年9月30日時点の株主名簿にご登録の郵便番号に2025を付けて11桁としてください。

本サイト・ログインに関するお問合せ

三菱UFJ信託銀行 証券代行部

TEL 0120-676-808

(通話料無料、土日祝日・12/31～1/3を除く平日9:00～17:00)

ご案内 当社の株主総会資料のご提供方法について

2022年9月1日施行の改正会社法により、株主総会資料は原則ウェブサイトでご確認をいただく電子提供制度が導入されました。当社では、決議事項のご審議をいただくにあたり、株主総会議案の参考書類は引き続きご郵送する予定です。事業報告等の詳細情報についても、書面交付を必要とする株主様は議決権行使基準日となる3月31日までにお手続きを完了ください。

お手続きについては、お取引のある証券会社または下記掲載の三菱UFJ信託銀行までお問合せください。

三菱UFJ信託銀行 証券代行部
(証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル)

TEL 0120-696-505

(通話料無料、土日祝日・12/31～1/3を除く平日9:00～17:00)

よくあるご質問

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/denshi.html>

もしくは株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。

MUFG 書面交付請求



名寄せ基準改定のご案内

2026年4月以降、証券保管振替機構による株主情報の管理办法の変更が予定されていることに伴い、株主様によっては名寄せが解除され、議決権の行使や株主優待のお受取り等に影響が生じる可能性がございます。改めてご自身の株式保有口座の情報が最新のものかご確認くださいますようお願いいたします。

第一三共株式会社

〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

FAQとお問合せ先一覧：<https://www.daiichisankyo.co.jp/contact/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。